

文化小劇場で紡ぎ出す

第7回～第11回[全11回]

# 名古屋の歴史 2016

名古屋市域の原始・古代から現代に至る歴史を編さんした

講演時間 14:00～16:00(全会場共通)

「新修名古屋市史」の編集・執筆に携わった歴史の専門家による講演会を開催します。

この機会に、名古屋の歴史にふれてみませんか？

**第7回**

**徳川将軍家と尾張藩**

2017年  
2月7日(火)

会場 北文化小劇場 [297席] 052-910-3366  
地下鉄名城線「黒川」下車 4番出口より北へ徒歩12分

講師 黒田 安雄 愛知学院大学名誉教授

江戸時代、徳川一門の大名(親藩)のなかでも、尾張・紀伊・水戸徳川の「御三家」は格別の家として特別に扱われた。時代が下るにつれて生じた宗家(将軍家)との確執と軋轢を、特に18世紀後半(宝暦～寛政期)の政治に焦点をあて、時代背景を紹介しながら語る。

**第8回**

**濃尾地震の痕跡を訪ねる**

2017年  
2月14日(火)

会場 港文化小劇場 [350席] 052-654-8214  
地下鉄名港線「港区役所」下車 1番出口より南へ徒歩3分

講師 松永 直幸 鉄道史学会会員

2016年4月の熊本地震は、濃尾平野に住む人々にとって、同じく内陸直下型地震である濃尾地震を思い出させるものでした。鉄道を中心とした濃尾地震の惨状を伝える古写真を紹介し、地震の痕跡を名古屋城の石垣、武豊線英比川橋梁の橋脚、岐阜市打越の地滑り痕に訪ねます。

**第9回**

**名古屋の町人の文芸活動**

2017年  
2月21日(火)

会場 名東文化小劇場 [356席] 052-726-0008  
地下鉄東山線「上社」下車 1番出口すぐ(上社ターミナルビル3階)

講師 安田 文吉 東海学園大学特任教授、南山大学名誉教授

徳川家康が日本の経済活動拠点として築いた名古屋城と碁盤割りの城下町、その意志を継いで名古屋をバブル寸前まで発展させた七代宗春、その結果、町人が経済的実力を蓄え、文芸活動に、またその支援に活躍し、それが今に続いて「芸処名古屋」となっている。その核心についてお話ししたい。

**第10回**

**濃尾平野の自然環境と災害  
～名古屋市域の地形・地質～**

2017年  
2月28日(火)

会場 南文化小劇場 [394席] 052-823-6511  
市バス(基幹1号系統、金山18号系統)「千歳通2丁目」下車すぐ

講師 海津 正倫 奈良大学教授、名古屋大学名誉教授

名古屋市の地形環境や土地条件はさまざまな自然環境の変化を受けて今日に至っています。また、この地域はこれまでさまざまな自然災害を受けてきました。本講演では名古屋市や濃尾平野の土地の生い立ちをふまえて、我々の生活の場における地形環境とそれにかかわる自然災害について述べます。

**第11回**

**名古屋東部の近代都市化は  
どのようにすすめられたのか  
～郊外住宅地形成の名古屋的特質～**

2017年  
3月7日(火)

会場 昭和 문화小劇場 [300席] 052-751-6056  
地下鉄鶴舞線「川名」下車 2番出口より北へ徒歩2分

講師 高木 庸太郎 愛知淑徳大学非常勤講師

名古屋東部の郊外住宅地化は、御器所台地上の愛知郡役所を起点とする文教地区づくりと街路づくりに始まり、東部丘陵地帯の京都の「東山」イメージと田園都市イメージの創造的適用で完成した。その具体的経過を推し進めた人物と構想に焦点をあて、特質とその意義について考える。

**料金など**

**入場無料**

**要チケット**

- ▶ 11月11日(金)から各会場窓口はじめ文化振興事業団各施設窓口でチケットを発券します。
- ▶ チケットがなくなり次第発券を終了します。
- ▶ 開場は各講演会開始の30分前です。
- ▶ 当日の空席状況につきましては、各会場へお電話にてお問い合わせください。
- ▶ ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

**スタンプラリー**

講演会全11回のスタンプを集めていただいた方には、最終回の昭和 문화小劇場(3月7日)にて、**名古屋市文化振興事業団主催公演のチケットを進呈**します。スタンプラリーの台紙は、第1回の緑文化小劇場(12月6日)にて配布します。